学校をつくろう!通信 第154号

珊瑚舎スコーレ

学校の役割　　その１３１

珊瑚舎スコーレは授業を中核として作り出される知的、芸術的状況を学校文化と呼んでいます。

その姿が文字表現となって具体的に表れるものが生徒、教員、教材のコラボレーションから生まれる前期、後期の自己評価ノート、身体性を伴った総合表現として表れるものが主に「まにまに祭(前期学習発表会)」と「うりづん庭(後期学習発表会)」の舞台発表だと思っています。

生徒、教員(スタッフ・講師)と保護者、支援者の方は、それぞれ立場は違いますが、学校文化を具現化するための同行者だと僕は色々なところで言ったり、書いたりしています。その学校文化創出のための呼び掛けである「学校をつくろう！」の言い出しっぺなので、この機会にすこし触れてみたいと思います。

当時、僕は私立高校の、面倒で引き受け手がいないような校長を３年を目途に引受けていました。

「今、僕はここまでやってきた」

「３年経った、散歩に出よう」

「さぁ、どっちに行こうか」

「やはり、あっちだ」

「散歩してたら４年も経ってしまった」

「僕といっしょにもう少し行ってみませんか」

「そしたら、こんなところに来ていた、皆さん、お付き合い、有難う」

「もうしばらく行ってみませんか」

「のんびり老後、あり得ない。そろそろ終活、もっとあり得ない、始めと終わりは自分じゃ決められない、おのずからに任せよう」

「もっとあっちに行って見ませんか」

「あっちの、もっと向こう」

今、こんな感覚で日々過ごしています。

「あっち」が、「あっちの、もっと向こう」にまで続いていると気づくのは、主に生徒の言葉や文章、姿や表情、その他、僕の日常の諸々が「もっと向こう」の在処を暗示してくれるからです。

授業は時間(時間割と日程表)とその中身づくり、教科や科目、様々な行事(珊瑚舎は行事も授業としてとらえています)などで区切られたブロック細工のようなものです。珊瑚舎の学びはこのブロック細工のようにぎこちなく不自然で無機的な時空間の羅列や堆積を、有機的な時空間へと昇華しなければならないのです。これが反応から思索を手に入れる過程だと思います。知識がやがて知恵や知性、知見へと変容するための萌芽を手に入れることが珊瑚舎スコーレの求める学びの本質と考えています。辞書のような言葉の羅列と堆積からやがて優れた短編小説が生まれ、また、それを読むことにより手に入れられる唯一無二の体験の場、このような場作りを珊瑚舎スコーレは目指しているのです。学びの主体である生徒それぞれのこのような変容の手助けをすることが珊瑚舎スコーレの役割です。

スタッフ、講師が時間割や日程表が必然的に内包する不自然さを知り、無機的な時空間が有機的な時空間へ変容するための契機を日常的に意識していることは「学校をつくろう！」の具現化のための必須条件です。生徒は多様な授業に参加しているのですから、その多様性が分散、孤立し、てんでんばらばらであれば、学びの喜びは半減するでしょう。時間割や日程表が、例えば、高等部の卒業制作「自画像の朗読」などの姿に変容していることが多様性の尊重がもたらす象徴的な場になる可能性があると思っています。（ほ）

がもたらす象徴的な場になる可能性があると思っています。（ほ）

２０２３年度入学を祝う会

入学を祝う会では４月スタートの児童生徒他、年度途中で仲間入りした児童生徒も一緒に舞台に立ちます。今年度、学校法人雙星舎珊瑚舎スコーレ高等部が３学年揃いました。新高１他、小学校低学年の部の「キッズスコーレ」の児童、キッズスコーレから初等部に上がった児童、初等部から中等部に上がった生徒、総勢18名が壇上に上がりました（今年度は夜間中学校生徒の入学はありませんでした）。
にぎやかなスタートです。

「入学を祝う会」では在校生達からのメッセージとして、珊瑚舎の時間割や授業、年間行事などを紹介する「珊瑚舎スコーレオリエンテーション」や「自分にとっての珊瑚舎スコーレ」が語られました。また自分にとっての珊瑚舎とは、を迎える言葉を在校生が贈ります。在校生達からの歓迎の踊りがあったり新入生達も替え歌で自分達を紹介するなどプログラムは盛りだくさんでした。

在校生からのオリエンテーションと新入生を迎える言葉を紹介します。

がじゅまる
しんかぬちゃー

（生徒・学生のコーナーです）

「珊瑚舎スコーレってどんな学校？」

こんにちは。高等部二年長藤祐真と盛口海です。珊瑚舎には、一年間の中で様々な行事があります。そのほとんどは「自準備・自作・自演・自片付け」の「４G（フォージー）」を意識して生徒たちで作っていくものです。いくつか紹介します。

まず本日、４月の「入学を祝う会」では皆で新入生を迎えます。「入学式」ではなく「入学を祝う会」としているのは、新入生の皆さんが主役だからです。形式があり偉い人の話を聞いたりする「式」ではなく、毎年内容が異なり新入生をウェルカムする為に行うので「祝う会」としています。

６月には馬天漁港で開催される馬天ハーリーに参加します。ハーリーとは旧暦の５月４日、５日に行われる沖縄の伝統的な爬龍船競技で、今でいうところのボートレースです。豊漁や航海安全などを祈って行われます。サバニと呼ばれる漁船を手漕ぎで進め、速さを競います。ちなみにここ２、３年は新型コロナウイルスの影響で馬天ハーリーが中止だったので、生徒で自主ハーリー大会を企画していました。とても大変な事でしたが、ハーリーをこぐために頑張り実行させました。夏の暑さに負けそうになりながらも、筋肉痛で体が悲鳴を上げようとも、手で漕いで船がグングン進んでいった時の快感は格別です。皆さんにもハーリーの楽しさを是非体験して貰いたいと思います。珊瑚舎は、馬天ハーリーでは２位までしかとった事がありません。今年こそはみんなで１位をとりましょう！

６月２３日、慰霊の日には全員で平和学習を行います。主に高等部が中心となって、その日どんな事を学ぶのか計画します。内容は様々ですが、一年間自分がどう「平和」と向き合ってきたかを振り返り、考える時間にしています。

前期・後期の授業終わりには自己評価ノートを記入する時間があります。珊瑚舎では「学力とは文章力」と考えています。テストの点数などで個々をはかるのではなく、文章を書くことで自分を振り返り評価するのが自己評価ノートです。

８月には、前期に学んだことを発表・展示する「まにまに祭」があります。「まにまに祭」には「人と人の間」「人と教材の間」で生まれ、育まれた学びを「前期と後期の間」に発表するという意味があります。

そして前期が終了し、夏休みに入ります。

夏休み明けには、旅の報告会があります。旅の報告会は、夏休み中に自分で旅を計画、実行しそれを発表してもらう時間です。

7 月にはキッズ、初等部、10 月には中等部、高等部でキャンプがあります。キャンプではエコネット美ら（名護市）にワークキャンプに行きます。そこはがんまりのお手本となった場所で、日頃の便利さから離れ、自然とより深く触れ合うことができます。

12 月には「とぅんじーあしびー」があります。「とぅんじーあしびー」は、冬至遊びの沖縄の言葉で、生徒が作った行事です。授業で習った事は使わず楽しむ行事です。

長期休みの前後三日間には、三日がんまりがあります。「がんまり」は「いたずら」という意味の沖縄の言葉です。「山がんまり」は２００５年に珊瑚舎の生徒や、たくさんの人達の力を借りて作られた校外施設です。電気、ガス、水道はありません。

冬休み明けには、新春朗読バトルがあります。新春朗読バトルは珊瑚舎内で唯一ある勝敗を決める行事で、毎年トーナメント形式で戦います。そして皆の感性が知れる楽しい時間です。

3 月には「うりづん庭（なぁ）という行事があります。うりづん庭の「うりづん」とは冬が終わり大地に潤いが増してくる時期の 2 月か 4 月のことを言います。庭〔なぁ〕は広場。皆が集う場所のことを言います。うりづん庭では「後期の学習発表会」「展示」「まれ人講座」「生徒が作る授業」と共に「卒業を祝う会」を行います。学習発表会は後期で学んだことを舞台で発表する場です。展示は後期の作品を展示し来てくれた方々に見てもらいます。そして「まれ人講座」というものがあり、まれ人講座のまれ人は客人という意味です。各方面で活躍している方々を珊瑚舎が招いて講座を行ってもらいます。

次に「生徒が作る授業」は、生徒が講師の立場になり会場の人達に授業をします。うりづん庭の後には卒業を祝う会を行います。在校生や卒業生、有志の人が出し物をしたりします。

最後に春休み前の 3 日がんまりの最終日に畑の卒業式があります。一年間のがんまりでの作業収めの日であり卒業生は自画像を朗読します。自画像といっても「絵」ではなく、珊瑚舎では文章による「自画像」を卒業制作しています。

簡単に話していきましたが、修学旅行や運動会など生徒が企画する行事もあるので、一年間楽しんでいきましょう。

＜新入生を迎えることば＞

「しんにゅうせいをむかえることば」

初等部４年　山田　真丈

さんごしゃはやさしいひとがいっぱいいます。みんなといっしょにサッカーをやる、たのしいです。さんすうをやるとなんだかたのしくなってくる。なかよくしましょう。

「自分にとっての珊瑚舎スコーレ」

高等部３年　仲里　守礼

自分にとって珊瑚舎は、動物園です。ウマやドラゴンやキリン色々な生き物がいる動物園ですが、もし動物園が猿だけだったらつまらないですよね。そう、同じじゃつまらないんです。なぜ珊瑚舎を動物園に例えたかと言うと、みんながそれぞれ色々な意見を持ってたりその人にしかない発想があるからです。それに馬の代わりは馬しかいません。ドラゴンの代わりはドラゴンしか居ないんです。それと同じように珊瑚舎も生徒の意見や発想はその人しか持ってないんです。だから代わりはきかない、だから色んな人の意見を聞くのは楽しいし自分の意見を伝えるのも楽しいんです。だから自分の意見を言うことに臆さず自分の意見を言って自分を作っていってください。

高等部３年　山川　虎雅

今日は入学や進学おめでとうございます。

珊瑚舎はそれぞれでどんな場所か変わって行きます。僕にとって珊瑚舎は新しい自分と出会える場所です。次のプログラムで説明がありますが珊瑚舎の行事や授業は自分のことを知る時間や、向き合う時間が沢山あります。なので毎年毎年新しい自分の事

を知る事ができます。前期と後期にある自己評価ノートでは、これまでの授業での自分を振り返り、ちゃんとこれまでの自分を見ないと書けないのでその度その度に自分の新しい所が見え、向き合う時間があります。それとここでは、話し合いを大切にしているので、何か決める事があったり、学校内で問題があったりしたら話し合う時間が沢山あります。その時間では自分の意見を言うので、今思っている事や、伝えたい事を伝える力が必要になってきます。伝えるには、どうしたら伝わるか今自分はどう思っているのかを考えないと自分の意見は言えません。なので自分を知り考えると言う工程をします。

珊瑚舎では今言ったようにいろんな角度から自分の事を知る事ができそれを表現していく時間が沢山あるので僕にとって珊瑚舎は、新しい自分と向き合える場所です。

珊瑚舎は毎年変わります。それは生徒達自身で学校を作っているからその年その年で在校生が変わるので、毎年少し変わったり大きく変わったりしています。なので今日から皆さんも一緒に新しい珊瑚舎を作って行きましょう。そして、自分なりの珊瑚舎を一緒に見つけて行きましょう！

高等部３年　横川　天南

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。高等部 3 年生の横川天南です。この場で皆さんに私の言葉を聞いてもらえることに、とても嬉しい気持ちです。

私は去年の 6 月に珊瑚舎に転入してきました。10ヶ月間珊瑚舎で学んで、最近気づいたというかしみじみ思ったことがあるのでお伝えします。それは、ここ珊瑚舎は安心して恥をかける場所だということです。恥、という言い方はちょっと違うかもしれません。でも私はここで人と関わって自分を表現していく中で、恥ずかしい思いをたくさんしました。自分がいかに無知で幼いか分かってしまった時、心の弱さから、人に優しくないことをしてしまったとき。情けなくて、穴があったら入りたいほどに恥ずかしいと思います。知ったからといってすぐに強くなれる訳じゃないし、自分の弱さを知るのは辛いです。でもそんなとき珊瑚舎は、弱い私を受け入れてくれました。周りの人が、弱さを理解してくれました。だから私は自分を責めるのでなく、見つめることができているんだと思います。

また珊瑚舎では文章で表現をし、みんなの前でそれを発表する機会が沢山あります。自分の作品を発表するのも、私にとって恥ずかしいことでした。つまらないと思われるのは怖いことでした。だからいつも不安だしドキドキしてしまうけど、発表会はそんなことどうでも良くなるほどに楽しいです。もっともっと表現したい、みんなに伝えたいという気持ちが湧き上がってきます。

自我なんてちっぽけで、その奥にあるものがみんな素晴らしいんだと思います。だから皆さん、珊瑚舎での恥はかき捨てです。どんどん表現をして下さい。私は気づくのが少し遅かったけど、残り一年出来るだけ自我の壁を越えていきたいと思っています。私の伝えたいことは以上です。今日はみなさん、本当に入学おめでとうございます。

＜中三　卒業制作＞

2022 年度は高等部、夜間中学校と卒業生がいなかったため、「卒業を祝う会」がありませんでした。中等部には卒業はありませんが、修了課題として「あのときかもしれない」という文章を残し、学習発表会で朗読します。前号から引き続き紹介いたします。

「あのときかもしれない」
（長田弘『あの時かもしれない』より）

＊長田弘の作品『あの時かもしれない』は「きみはいつおとなになったんだろう。」で始まっています。「きみはある日突然おとなになったんじゃなかった。きがついてみたら、きみはもうおとなになっていた。なった、じゃなくて、なっていたんだ。その「いつ」がいつだったのか。」私達はいつ、どんなことで「子どもじゃなくなった」と意識するのだろう。自

分の輪郭を知る為に、その境目をみます。（「人は文章を書く生きものです。」（木魂社）説明文より　）

✍　✍　✍

「あのときかもしれない」

中等部３年　平良　栄太

小学生の頃の君はとにかく遊ぶのが大好きで公園でサッカー、鬼ごっこ、ドッジボールを友達とするのが大好きだった。自分から友達の家に行って誘うくらいには遊ぶのが大好きだった。

ある日友達の家に遊びに行った。その友達の家にはゲーム機があった。君の家にはゲーム機がなくて、そこで初めてテレビゲームをやったんだ。今でも思い出せる、友達と笑い合いコントローラーを握って操作も分からないのに兎に角カチャカチャさせた。それから数年。負けず嫌いだった君は誰よりも上手くなりたいと思い、どんどんゲームにのめり込んだ。今思えばゲーム以外にやりたいと思ったことがあまり無かったからかもしれない。そんなやり込んだゲームもいつかは飽きる。ゲームに飽きて何もしなくなって暇になった君は長期休みにアニメ鑑賞にハマった。３０作品くらい見た気がする。その中に凄く心に刺さった作品があった。その作品は君が小さい頃に見た作品。

小さい頃、姉が号泣していただけで何も思わずに見ていた。映画を見ても、ドラマを見ても泣けなかった君は泣いている人を見て、どうして泣いているのか分からなかった。が、しばらくたってその作品を見返していた君はすすり泣いていた。

その時君が泣いたのは君が悲しみを経験しているから、知ったから泣いたんだ。あれから君の心は繊細になったのか、泣きやすくなった。それは君にとってマイナスな事じゃなくてプラスな事だと思う。

あの時、君の心は変わったんだ。

✍　✍　✍

「自分が大人になったなと思った時」

中等部３年　城間　喜子

思った時？？自分がまだ子供でいたいなって思った時かもしれない。子供だと思ってた時は早く大人になりたいと思って毎年過ごしてたけど、今はなるべく大人になりたくない。

昔に戻ってやり直したいことが沢山ある。例えば、きつい言葉で傷つけちゃった時とか、相手の気持ちを無視しちゃった時とか、ありがとうとか、ごめんねとかそういう小さいけど、言いたかった言葉をいえなかった時。そんなのが沢山、沢山あって、今は大人になりたくない。

周りの言葉を自分の解釈で飲み込む時、いつも悪い方向に飲み込んでしまって、こうやって一人なんだって思い込むのも全部まだ大人にも子供にもなりきれてないからだと思う。

子供でいたいけど、まだ子供だし、頑張ってるけどまだ大人にはなれてないし。それに大人になる瞬間は一回だと思うからその一回を探して、見つけたら文字にして大切に持っときたい。

2022 年度後期学習発表会「うりづん庭」より

～「生徒がつくる授業」（後編）～

「生徒がつくる授業“菌“」

＊菌チームでは「菌と食」「除菌」という２つのテーマに分かれて授業作りをしました。それぞれ生徒達の声を紹介します。

＜授業準備の感想（中等部　眞喜志　樹）＞

菌と食チームはまぁまぁ順調にいったと思います。ワークシートを使う、創作発酵食品の考案、などわかりやすくてワクワクする意見が出たしそれを形にすることもできました。

除菌チームはかなり苦戦している印象でした。「菌のビブリオバトル」のアイデアもギリギリになって思いついたようだった。ただ結果的には良い授業になっていたみたいです。

全体的にはかなり時間に追われる授業作りだったようにおもいます。個人的にはあまり準備に集中出来ず他のことをやったりしていた。話し合いや共有の時間など、もっと興味を持って積極的に取り組めたらよかったです。

＜授業（当日）の感想（高等部　盛口海）＞

個人的には良い授業をすることが出来たと思います。最初に寸劇を持ってきた事でお客さんの興味をかなり引くことが出来たし、（予定より長くなってしまいましたが）自分たちの調べ考えたことをプレゼンテーション出来た事も良かったです。

グループに分かれたときに、けっこうプレゼンの話をしてくれる人が多くて「伝えたかった事がちゃんと伝わっている」と感じました。またグループでの除菌チームの話し合いでは「除菌のしすぎは本当に良いことなのか」という、ずっと疑問に思っていた事について話し合いたくさんの意見を聞く事が出来たので本当に良かったと思っています。「菌とのこれからの付き合い方」として、授業の準備をしている時には出て来なかったような意見が聞けて、そういう考え・菌との付き合い方も良いな～と思いました。

食と菌チームの話し合いはあまり把握できていませんが、聞いていた感じかなり盛り上がっていましたし、共有の際に発表してもらった妄想料理は聞いているだけでお腹がすくようなとても美味しそうな料理でした。本来の予定時間である80分間をオーバーしてしまいましたが、楽しく菌につて意見が出し合え、そして考えることが出来て良かったです。

菌の授業で話し合って考えた事を大切に、これから先も見えない隣人・菌との付き合い方を大切にしていきたいと思います。

＜食と菌チームのワーク（高等部　横川　天南）＞

食と菌チームでは、創作発酵食ワークをしました。

★オジサン(魚)を必ず使い、他に米、豆腐、大豆、金時豆、塩、パイナップル、マンゴー、バナナ、シークァサーを使ってもいい

★主に使える菌はニホンコウジカビ、アワモリコウジカビ、酢酸菌、乳酸菌、納豆菌、酵母

(材料を組み合わせれば酒も酢も醤油も、他にも色々作れます)

食と菌メンバーが１番面白くて美味しそうと判断した発酵食品を作ったグループの方、他のグループでも食べたい方には、中国の腐乳(内田樹より)と菌の授業メンバーで作った豆腐餻を試食してもらいました。

-選ばれたレシピ-

☆「パリパリオジナットウ」

オジサンの皮を剥ぐ。身は切り刻む。納豆にオジサンの切り身と血を入れて混ぜ、コウジカビで発酵させる。皮で包み、醤油とシークァサー汁をかけて焼く。

☆「バナナおじさん」

バナナ(皮ごと)、塩、泡盛(米、アワモリコウジカビ、酵母で作れます)をミキサーで混ぜる。それにオジサンをつけてグリルで焼く。シークァサーを搾る。ご飯と食べる。

－その他－

◯「西京づけ　味噌とナンプラー風」酵母菌と味噌に切り身をしばらく漬けて焼く。出てきた液はナンプラーにする。

◯皮と骨をナンプラー(多分オジサンでも作れる)に漬けて発酵させる。オジサンの白身をつけて食べる。

◯「オジサンスムージー」オジサン、バナナ、シークァサー、乳酸菌

◯「オジサンの金塊」オジサンを乳酸菌で発酵させてソテーにしてマンゴーを添える。

◯「オジサンマース煮」マース煮に、味噌を足して味噌汁にしてもいい。果物＋酵母の果実酒で酒盛り。

◯「生き伸びるゾ」乱切りにしたオジサンと、全ての食材を竹に詰める。5年間置く。どろどろになっている。少しづつ体に入れて、地球の危機も乗り越えられる。

◯「オジサンの泡盛酢漬け」オジサンを漬けている泡盛に酢酸菌をいれるとそのまま酢になっていく。好きなタイミングで食べる。

◯「マンゴー刺身」マンゴー果汁と塩につけ、少し乳酸発酵させたオジサンを刺身で食べる。

◯「旨味の塊オジサン」オジサンにカビを付けて干す。さらにカビと麹を付けて旨味の塊に。

◯「うまみマンゴーオジサン」オジサンとマンゴーを麹菌で発酵させて、食べる。

◯「オジサンとバナナのパン」おからとオジサンとバナナと米粉を混ぜる。バナナ酵母で膨らませて焼く。

◯オジサンの醤油漬け

などなど、たくさんのレシピが考案されました！

＜除菌チームのワーク　（盛口　海）＞

除菌チームでは「除菌のし過ぎは人にとって良い事なのか」という観点からテーマに沿って話し合い、それを発表して一番良いと思ったグループに投票をする「菌のビブリオバトル」というワークをしました。その中で出てきた意見を紹介します。

① 菌を全て殺す、ではなくいい菌を増やすのがいいのでは→それが出来るものを開発する。

提案：人と仲良くできる菌で一番強いのは納豆菌。納豆菌を塗りたくる。または納豆のねばねばを水に溶かしたものをスプレーにして吹きかける。

② コロナ前のようにほどよく除菌し、ほどよく病気になりほどよく免疫を付ける。

提案：昔の琉球の人は天然痘にかかった人のかさぶたを食べて天然痘を予防していた。科学的なワクチンよりも天然のワクチンは身の回りにたくさんあるから、それを摂取した方が良いかも。

③ 除菌のし過ぎは反対。スーパー等どこへいっても消毒液がある。しなきゃいけない無言の圧を感じる。→手荒れ・脚荒れ・湿疹がひどい。除菌のし過ぎで皮膚が弱くなっている？守ってくれている菌もいるのに全部殺すから。

提案：国やCM、世間の圧に負けず一回自分で考えよう

④ 手洗いのし過ぎ嫌だ。石鹸ではなく水で洗うことが多い。→石鹸を使うのは考えどころ。

提案：手を石鹸で洗う回数を控える。色んな人が集まるとことか、トイレの後とか。お風呂とかのみにしてもいいかも。

⑤ 除菌はしすぎなくてもいい。しすぎてアレルギーになる。人体を常在菌の満員電車にすることが大事。

提案：生まれたらすぐに赤ちゃんを動物園に連れていく。動物の持つ菌に触れるのは良いことらしい。あるいは、がんまりに連れていく。裸足でがんまりを歩いたりする。

最後に授業後に書いてもらったアンケート（抜粋）を紹介します。

・自分は菌について特に考えたことなく、菌についての関心がありませんでした。ですが今回、菌の授業は菌の大切さや色々な菌の事を勉強できて、とてもよい授業だと思いました。

・菌の授業を受けて僕は菌とはとても人の生活に必要不可決な存在なんだな～と思いました。

・私はいままでアルコール消毒は 100％良いことだと信じて疑いませんでしたが、実際は私たちを守る菌様を殺してしまっていたことが分かり、衝撃を受けました。これからは手洗いだけにしようと思います。洗った後は菌が多いハンカチで拭くのか、菌が少ないペーパータオルで拭くのか、どちらがいいのか考えます。

・菌の授業を受けて、菌は全部ばい菌だと思っていたけど、良い菌もある事を知って凄いなと思いました。「菌のボツリヌス菌は 500ｇで確実に世界の全員が死ぬ」という話を聞いて怖かったです。でも体の中に菌がいると考えて、初めの菌の画像を見て考えると気持ち悪かったです。最初の劇も面白かったです。

・流れがとても良かったです！子供たちの豊かな発想、表現、発表で大人もたくさんのことが学べました

🙂普通の公立学校では体験できない幅広い視点が素晴らしいし、珊瑚舎の良さだと思いました。除菌、菌を殺す/排除するのではなく、共存する/生かすというコメントにグッときました。最初の劇も導入としてよいです！食と菌、日本の食文化として最も誇れる 発酵 を学べて良かったです。レシピアイデア出しも楽しくて、子供たちからたくさんパワーをもらいました～

🙂みそ＆掌の菌に愛着持ちました。

・毎年この授業は楽しみで楽しいですが、菌という身近な素材であった事で、参加してても広がりがあり楽しめました。食と菌は日常的に意識しています。近々「おからで作るみそ」をやってもようと思っているんですよ♪ 除菌は新しく知る情報もあり、また除菌について雑にしかとらえてなかったですが、皆さんの除菌への疑問は実はすごく重要な事かもと感じました。「鵜呑みにせず考えて行動する」オトナが設定したルールがいつも正しいとは限らないです。

・改めて、人と菌が共存している事を知り、いとおしくなりました。人を殺す可能性も、健康に暮らしてい

ける可能性もある菌について、もっと知っていく必要があると思います。最初の劇ですごく興味が持てたし、興味を持ち続けて学べるとても面白い授業でした‼ありがとうございました‼

・菌の種類が細かく分けられていて、食品としての菌は、食として摂っているが菌で食べ物を作る発見は考えるのが楽しいし、イメージとしてふくらんでいった。除菌で守られている自分がいるので、しばらくは続けるだろうと思う。

・菌が人間にとって役に立つ面、反対に害を与える面がある事が良く分かった。いのちというのは複雑で神秘的ですね。

・みんながすごく色んな視点から調べていて、すごいなぁと思いました。菌は大切♥仲よくしよう。

菌によって生と死について考える。とても大きな事ですね。素敵です。私は。菌にまみれて生きている。ありがとうございました。

「伝統文化」　　初等部　仲里　成矢

生徒が作る授業で「伝統文化」と言うテーマ を選んだのはたったの４人。その４ 人で授業を作るために準備始めた。まず準備をどう進めるか順番を決めました。

プレゼンすることを考えたり調べたりする→ 生徒が体験するための内容を考える→ 自分たちがやってみての感想を考える、と順番を決めました。まずプレゼンすることを考えたり調べたりすることは個人で考えたり調べると言う事だったので、4人で何を調 べるのか話し合いました。その結果、全員バラバラで１人はアイヌの文化、１人は三線について、１人は八重山の文化、1人は実は外国の文化と言うことで調べていたので簡単に終わりました。自分たちのやってみての感想も個人で考えることだったので、話し合いもせずに全員で言おうと言うことで終わったけど、生徒が体験するための内容を考えるというのは毎年話し合いでやっているから、話し合い以外のものでやろうと言うことで考えていたのですがどうしても思いつかず、気づけば前日になっていた。そこでやっぱり話し合いで行こう、話し合いのテーマは「消えていく伝統文化」となって解決した。これで全ての準備が終わった。本番中に失敗があったけど 4人で乗り切った。説明も最後は大成功で終わった。

★　★　事務局便り　★　★

★２０２３年度はキッズスコーレから夜間中学校までの児童生徒、計５２名でのスタートです。オープンスペースの校舎では隣のクラスの声がとかく大きくなりがち。すると黒板越しに「もう少し声を落として！」などという声が聞こえてくる事があります。そんな事が幾度となく続くとシンカ会議で「教室は自分の家ではないよ、自分だけの空間（場所）ではないよ」と高等部の生徒が呼びかけます。場をつくる事、つくり続ける事、考える事、考え続けようとする事を生徒達と改めて考えました。

★４年ぶりに馬天ハーリー大会が開催されます。本番一月前から校舎では体幹を鍛える時間がスタートです。今年こそは！と願います。

★山がんまりではピタンガ、グアバなど多くの果実が彩を添えます。嬉しい事に今年初めてサクランが咲き、木々の間で花房を揺らしています。

★　★　★

●今年度(2月1日～3月31日)寄付・カンパを頂いた方々

石野裕子市野寿子大城喜春小渡律子鹿糠文子北上田登久子城間あずき当山幸江長嶺由紀子真津昭夫矢崎智章山田道子湯本貴和與儀勝子与那覇晴海西山哲平石田みどり竹内新仲村宮子横山真弓萩原真美照本祥敬岩月住江三枝菜美子所扶久代手塚賢至大城博三浦幸子式部恵子森口美千惠丹羽雅代家門収一上田秀一盛口佳子橋川由美子助川寿美子武田富美子辰巳万里子安里桂子安田直美下地孝法岸暁美城間栄順村上呂理丸谷彰喜屋武富男奥本札美瀬底純子中地八重子鉢嶺広子新倉美佐子安田圭太郎当山恵子名嘉光夫湯浅松生佐藤日南子松原慶子知念彗子中村ヒサ子西原邦男中村千恵子國吉キク子比嘉亮介恵子須田恵金見倫吾大湾真美タケダシノブ堀淳一新垣由美子新垣良宏西田幸代井口万紀雄野原京子横山美保子上泉靖子安渓大慧横川玄泉恵子開発教育協会野村佳雄高橋恵美子大谷一代坂本新一郎菜の花岸本千賀子なかにわスクール内田俊夫佐久本直子宮城邦昌西田悦子川村民枝鈴木和男早石周平幾代昌子菊入直代美五十嵐正博平地ますみ神谷郁雄曽田蕭子後藤曜子木名瀬武男

発行者　：珊瑚舎スコーレ
事務局　　遠藤知子 樋口佳子
住　所　：〒901－1414　南城市佐敷津波古 509―4
Tel　　：098－975－7781　　Fax：098-975―7783
Mail　　：info@sangosya.com
URL　　：https://sangosya.com